

金井淳二先生の定年退職記念最終講義にあたって

産業社会学部長 佐藤 春吉

本日は退職記念講義ということです。昔は有名な先生の「最終講義」があるとニュースになったりしました。一人の先生が生涯をかけて研究・教育をされて退職にあたって学生諸君に最後の講義をされるというのは特別な意味を持っていると思います。先生のお仕事のことや、最後に皆さんに伝えたいことなどを、まとめていただくということが慣例のことになっております。先生の正式な教授職としての記念すべき最後の講義ということになります。皆さんにお伝えしたいことがこめられた講義だと思いますので、しっかり受け止めて聴いていただければと思います。

金井先生は、40年にわたって立命館で教鞭をとってこられました。金井先生は実直な方であります。私も、いろんなことでお世話になってきました。ここぞ、という時には金井先生しかまとめることができないということがあり、最近も大変なご苦勞をお願いして、学部の重大な判断をしなければならぬ時に力を尽くしてくださいました。それは一つの象徴でありまして、いろんな場面で金井先生が産業社会学部において役割を果たしてこられましたことを感謝申し上げたいと思います。

さて、ご経歴ですが、金井先生は、1968年、東京教育大学体育学部をご卒業になられ、同じ東京教育大学（やがて筑波大学に変わっていくわけですが）の大学院を修了され、1972年、立命館大学経営学部助教授として赴任されました。以後、国際関係学部に移られ、1994年、産業社会学部にこられました。先生のご専門は、スポーツにおける技術論ということです。ご研究のテーマは「スポーツの核となっている物質的手段、社会的システム」というものですが、スポーツという競技を成立させている物質的手段が、どういうふうに社会的に構成されるかということをテーマにしたご研究をされて、スポーツ研究の分野で、大きな貢献をされておられます。こういう研究の他に金井先生は、本学のスポーツ系の教育の制度、運営に大きな力を発揮されました。本学では、教養科目としてたくさんのスポーツ科目を配置していますが、これをマネジメントするのは大変なことで、その仕事をずっと支えてこられたということです。その点で多大なご貢献をいただいたと思っております。学内の役職としては経営学部では学生主事をなさり、国際関係学部では学部主事、今日で言う副学部長をなさっておられます。その後、大学評議会評議員、これは大学の理事会の政策決定に対してチェックをしていく重要な全学の組織の委員ということですが、を務められました。本学では国庫助成を推進していくとうことで全国の大学をリードしながら運動をやってきましたが、その委員会の委員長をなさったご経歴もお持ちです。入試主査として一切の責任を負うという重責を担う

役職も歴任されました。さらに教養教育におけるスポーツ系教育の関係の委員その他、たくさんの役職をされました。社会的な活動では新日本体育連盟の京都府事務局長を長年お務めで、学校体育研究会の京都支部で10年以上にわたって会長をやってられました。先生の誠実なお人柄そのままに多面的な分野に渡ってお仕事をなさったということでございます。

今日は「スポーツの生活化、生活のスポーツ化」というテーマですが、先生は、日常の中でスポーツにふれる機会が多い現在の社会の中で、スポーツがどういう可能性を持っているかについて、広い知見から論及される仕事をなされ、さまざまな著書も書かれています。金井先生は、退職後も教壇に立って講義されることと思います。研究活動については、現職である、なしにかかわらず、続けられるわけですが、産社の教授職としては今日が最後の講義となります。先生のお話をしっかり受け止めて、先生のご研究を受け継いでいただければありがたいと思います。金井先生に感謝を申し上げて、ご紹介に代えさせていただきます。先生、どうもありがとうございました。